



ヒラメ(瀬戸内海系群)

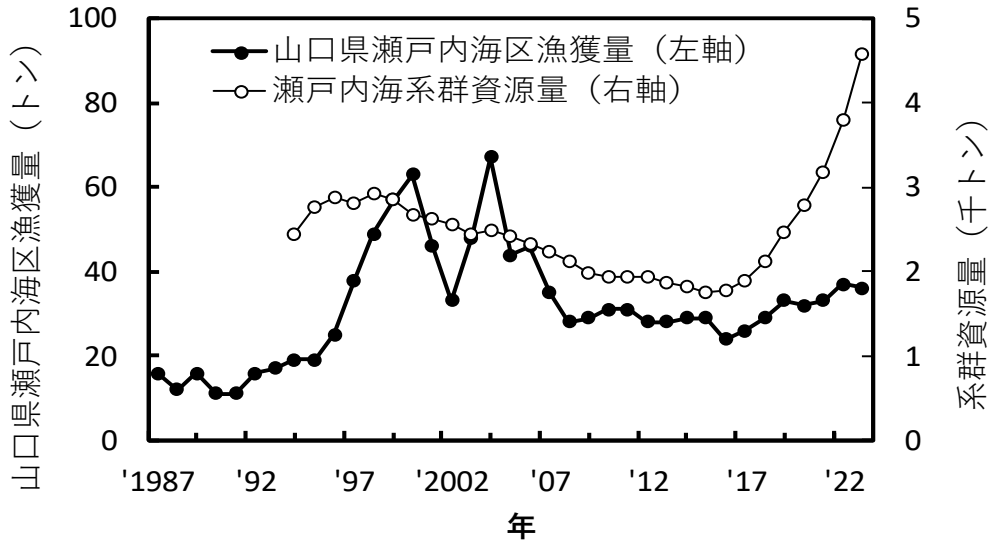


図 山口県瀬戸内海区ヒラメ漁獲量(農林水産省統計情報水産業調査 HP)及び瀬戸内海系群ヒラメ資源量((国)水産研究・教育機構資源評価報告書)の推移

【漁業】ヒラメは主に小型底びき網(以下、小底)、刺網、定置網、釣漁業(延縄を含む)で漁獲される。漁法別漁獲量では小底が中心であり、2023年における割合は小底55%、刺網22%、定置網16%、釣漁業7%であった。秋には未成魚、冬から春にかけては成魚が漁獲の主体となる。

【漁獲量】山口県瀬戸内海の漁獲量は、1987~1995年には20トン未満で推移した。1996~2007年には増減を繰り返しながら2004年に最高67トンを記録した。2008年以降は30トン前後の横ばいで推移している。2023年は36トン(概数値)であった。

【資源状態】系群全体の2023年資源量は4,600トンで、1994年以降最大となり、最大持続生産量(MSY)を実現する親魚量(SBmsy)を上回った。本系群に対する漁獲圧は長期的に低下傾向にあり、近年の0才魚資源尾数には不確実性が高いものの、特に若齢魚に対する漁獲圧は低い水準にあると考えられる。漁獲圧は2020年以降継続して親魚量を維持する漁獲圧(Fmsy)を下回っており、本系群においては、これらの低い漁獲圧と安定した加入により近年の資源量の増加がもたらされていると推察される。

ヒラメ瀬戸内海系群の資源評価関連指標値等(単位:トン)

2023年漁獲量	最大持続生産量(MSY)	2023年親魚量	目標管理基準値(案)	限界管理基準値(案)	禁漁水準(案)
524	806	3,300	2,400	900	100